

## 川崎市総合防災訓練に参加しました（2021/11/14）

テーマ：避難所運営訓練、水難救助訓練、間仕切りシステム

場 所：川崎市高津小学校、中央卸売市場北部市場、高津区役所道路公園センター（神奈川県川崎市）

当研究所の村尾修教授（国際防災戦略研究分野）が、2021年11月14日に開催された、令和3年度川崎市総合防災訓練に参加しました。この訓練は、大型台風による風水害や首都直下型地震等の地震災害の発生に備え、自助・共助・公助の理念に基づき、市民、自主防災組織、企業、市及び関係行政機関が迅速な初動活動と災害応急対策を確立するとともに、市民の防災意識を高め、地域防災力の強化を図るために、毎年実施されています。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた風水害での避難所運営訓練や、新総合防災情報システムを用いた情報受伝達訓練を行うなかで、実際の発災時を想定した「より実践的」な総合防災訓練となりました。訓練には、市民をはじめ高津区自主防災組織連絡協議会、市及び関係行政機関など多くの関係者が集まりました。訓練内容は、実災害を想定した市民参加型や避難所設置・運営訓練、避難所体験ツアー、防災協力事業所の展示等、多岐に渡っていました。

なかでもメイン会場となった高津小学校では、屋上のプールを利用し、救出救護訓練（水難救助）が行われました。浸水した家屋に取り残された人や溺れている要救助者を救命ボートにて救助隊が救護する場面もありました。また、坂茂特任教授（客員）が代表理事を務める、特定非営利活動法人 ボランティア・アーキテクト・ネットワーク（VAN）が開発した「間仕切りシステム」が展示されました。このシステムにより、災害発生時の避難所において、紙管と布で誰でも簡単に組み立てられ、カーテンの開閉によりプライバシーを確保することができます。

災害科学国際研究所は、2021年4月1日より、川崎市及びVANの3者間で「災害時等における避難所用簡易間仕切りシステム等の供給等に関する協定書」を締結し、同システム等を迅速に供給することにより、感染対策やプライバシーの確保に配慮した円滑な避難所運営を実現することを目指しています。また、村尾教授は川崎市防災対策検討委員も務めており、引き続き、避難所運営における様々な課題の解決に向けて専門的知見に基づき支援を行ってまいります。



水難救助の様子



間仕切りシステム設営の様子